

# くすのき

横浜市立西本郷中学校  
横浜市栄区小菅ヶ谷 1-29-1  
Tel 045-892-1911

第12号 令和6年3月22日

## 第44回卒業証書授与式

～ 輝け 44期生 ～

校長 廣淵 徹志

令和6年3月12日（火）、本校体育館において「令和5年度横浜市立西本郷中学校第44回卒業証書授与式」を実施いたしました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により制限を余儀なくされていた昨年度までとは違い、笠間連合町内会自治会会長の指田弘様を始め、学校運営協議会、部活動支援会会長、同窓会会長、防災拠点委員長、地域・学校協働本部等、日頃より本校の教育活動にご理解、ご支援をいただいております多くのご来賓や保護者の方々のご臨席のもと、本校「卒業証書授与式」を盛大に挙行することができました。



卒業証書授与では、卒業生全員がマスクを付けず、笑顔や緊張した面持ちを見ながら卒業生一人ひとりに卒業証書を授与できたことは大変嬉しく、感慨深いものがありました。また、「卒業生門出のことば」では、卒業生代表3名が中学校生活三年間のそれぞれの思いが綴られ、胸が熱くなりました。卒業式の最後に卒業生合唱「手紙～拝啓十五の君へ～」を響かせ、心打つものがあり、ご来賓の方々や保護者の皆様から自然に拍手が起こり、感動が伝わったものと実感しました。

### < 学校長式辞より抜粋 >

3月5日の「啓蟄」が過ぎ、様々な生き物が土から暖かさを感じて外に出てくる季節となりました。学校周辺の桜も徐々に蕾が膨らみ、三寒四温を繰り返し、新年度の皆さんの新たな門出を祝って満開を迎えようとしています。131名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

### < 中略 >

さて、皆さんは本校に入学した時は、新型コロナウイルス感染症の影響で、学校生活も、制約の中で過ごす日々でした。ここに来て、五類となり、ようやく社会や学校生活が元に戻ってきました。しかし、今年の元日には能登半島地震が起こるなど、私たちの生活には、常に不安が付きまとっていることも現実です。

歴史を紐解いても、私たちの生活の中にかかる様々な災害やウイルスによる感染症などは、太古から存在し、人類はその影響を克服し、また、うまく付き合いながら生活を営んできました。

「人は自然によって生かされている。人は人によって生かされている。言い方を変えると互いに助け合いながら生きている」ということを私たちは忘れてはいけないと思います。

『人類の英知』『日本人の英知』で克服し、これからも「自然とともに共生」していかなければなりません。

どんなにAI（人工知能）が発展を続ける時代においても「助け合う」「人の痛みを感じる」心を持っていることが大切だと痛感しています。

そして、「人には乗り越えられない試練はない」と信じ、「周りを慮る」ことが必要だと思います。



< 中 略 >

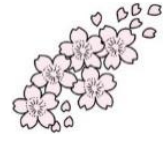
「自ら挨拶」「自ら判断」「自ら行動」 人とのつながりを大切にする思いやりある西本中生という学校教育目標のもと、「ソーラン節」で友と汗を流し、気持ちを鼓舞した体育祭、SDGsプログラムや平和学習を体験するため航空機利用で実施した沖縄修学旅行、鎌倉芸術館でクラスが一つになって奏でた「楠笑祭」・・・。

< 中 略 >

これから新たな道を歩み、明日を担う卒業生の皆さん

志を持ち、『夢を語る人であれ』 『希望を持ち続ける人であれ』

輝け44期生 卒業おめでとうございます！



## 在校生 送ることば

寒さの中に春の暖かさを感じる季節となりました。

三年生の皆様、本日はご卒業おめでとうございます。在校生一同心よりお祝い申し上げます。私たちにとって、先輩方は親しみやすく、心から尊敬できる憧れの存在です。

そんな先輩方の中学校生活は新型コロナウイルスに大きく制限されたものだったと思います。一年生の体育祭、楠笑祭は中止となり、二年生になっても制限のある中での開催で、十分に楽しめるものではなかったかも知れません。そのような状況の中でも目の前のことに全力で取り組み、できる限りのことを尽くして楽しもうとする先輩方の姿を私たち後輩はずっと追いかけてきました。

三年生に進級された今年度は、新型コロナウイルスの制限がなくなり、以前のように行事が行えるようになりました。その行事の中で、私たちは先輩に大きな憧れを感じたことを覚えています。

体育祭では、三年生の存在の大きさを実感しました。騎馬戦では見ているこちらまで伝わる緊迫した空気と、一步も引かない白熱した戦いで体育祭を大いに盛り上げてくださいました。そして、魂のこもった西本ソーランは忘れられません。制限のある中での体育祭を乗り越えた先輩達だからこそ出せる迫力を感じ、一つ一つの動きがそろった一体感のある踊りには、見ている皆が圧倒されました。

また、楠笑祭でのホールいっぱい響き渡る美しい合唱は今も鮮明に覚えています。大きなステージに立つ堂々とした姿からは最高学年としての威厳を感じ、重なり合う歌声から先輩方の三年間深め合った絆が感じられました。自分たちもいつか三年生のように歌いたいと強く思い、先輩への憧れがさらに大きくなりました。

部活動や委員会活動の中でも先輩方は私たちの目標でした。私が生徒会本部での活動を通して見てきた先輩方は、責任を持って仕事に取り組み、いつでも周りのことを考えて行動していて、最高学年と呼ばれるにふさわしい存在でした。部活動や委員会自分たちが学校を引っ張っていく立場となり、日に日に先輩方の偉大さを身にしみ感じていました。

そして、日々の学校生活の中でも先輩方はいつも憧れの存在でした。どんな時でも優しい笑顔と言葉で親しく接して下さり、その言動一つひとつには頼もしさもありました。その頼もしさから感じた大きな背中には私たちの憧れです。

学校の中で出会ったときには、温かい笑顔で話しかけて下さり、いつしか先輩に会えることが毎日の喜びとなっていました。

そんな先輩方の姿を見られるのも今日で最後かと思うととても淋しく、胸が苦しくなります。私たち後輩にいつでも優しく親しみやすく接して下さったこと、最高学年として様々な場面で西本郷中学校を引っ張って下さったこと、本当にありがとうございました。どれほど感謝してもしきれません。先輩方と過ごした時間は、これからも私たちの誇りです。先輩方にとっても、私たち後輩と過ごした時間が良い思い出であることを願っています。そして、先輩方から学んだ多くのこと、先輩方がつくって下さった明るく優しい西本郷中学校をつないでいけるよう、在校生一同努力して参ります。

最後となりましたが、先輩方の未来が、いつでも笑顔で溢れていることを心から願い、贈る言葉とさせていただきます。



## 卒業生 門出のことば

僕にとってこの中学校三年間は短いようで、とても濃い思い出となりました。こうしてたくさんの思い出を作れたこと、笑顔で卒業式を迎えられたことは、様々な人からの支えがあつてこそだと思ひます。特に部活動では数え切れない程の仲間助けられました。部活動体験では、練習についていけないのか、先輩方とうまく関われるかなど、不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、そんな心配はいりませんでした。先輩方や顧問の先生は、笑顔で優しく僕たちを迎え入れてくださいました。本格的に活動が始まり、先輩についていくのに精一杯で、練習の厳しさを実感しました。この厳しさに慣れてきたと思つた時には、すでに一年が経ち、二年生になっていました。先輩に頼るだけでなく、逆の立場となり、後輩を支え、前で引っ張っていく、そんな存在になろうと考える機会が増えたことでしょう。そう考えていても自分の力の無さを痛感したり、思うような結果が出せなかったりと辛いことも様々あつたと思ひます。ですが、それ以上に、勝ちたい、上達したいという強い思いが自分の助けとなり、必死に練習に励みました。そして、大きな背中となつていた三年生たちが引退してしまいました。新たなチーム、新たな体制で上手くいかないこともありました。上手くいかないときは全力で励まし、上手くいったときは共に喜んでくれる、そんな仲間がいたからこそ乗り越えることができたと思ひます。そこからあつという間に時間が過ぎ、三年生となりました。最上級生として後輩の手本になれるよう努力し、後輩も含め、頼れる仲間が団結し、三年間の努力が実り、満足いく結果で引退することができました。部活動での三年間を通して仲間と協力することの大切さを知ることができました。そして支えてくれた多くの人たちには感謝してもしきれません。今度は僕たちが誰かを支えるようになりたいです。三年間共に過ごしてくれた同級生の皆、毎日、毎日僕たちを成長させてくれた保護者の方々、僕たちの知らないことを幅広い分野まで教えてくださった先生方、本当にありがとうございました。

西本郷中学校で過ごした時間は決して忘れません。また、どんなに大きい壁にぶつかったとしても必ず助けてくれる人がいることも忘れません。僕たちはそれぞれ違う道を歩んでいきます。目の前にあるたくさんの道から進みたい道を歩み、私たち一人ひとりが思う立派な大人になって見せます。

— 卒業生代表 矢野 壮真 —

3年前、新型コロナウイルスの影響による短縮された入学式のことを覚えていますか。知らない人が多い中、人間関係、学業、学校行事や部活動など様々なことに不安や期待を抱きながら私たちは入学しました。見たものの全てが新鮮だったことをよく覚えています。そんな私たちは今、3年前とても大きく見えた制服を立派に着こなして、大切な仲間と今日という日を迎え、新たなステージへの期待、そして、この西本郷中学校への感謝で胸をいっぱいしています。

私たちの過ごした中学校3年間は、新型コロナウイルスの影響を受けながらも、もとの日常へと戻っていく3年間でした。1年生の頃は分散登校から始まり、横の人の顔も知らないまま、小学校の頃とは内容が全然違う授業を受け、少し寂しい気もしたような学校生活だったことを覚えています。特に、すごく楽しみにしていた体育祭、楠笑祭はやりたくてもできない状況でした。

ようやく学校生活にも慣れてきた2年生。1年生の時には開催がかなわなかった体育祭と楠笑祭が少しずつ形をとり戻しながら行われました。雨の影響で2日に渡って行われた体育祭。一人ひとりの間隔を大きくして歌った楠笑祭合唱の部。制限が大きくかかっていた展示の部。自分たちが想像していたものとはことなっていた所もあつたけれど、それでも十分に楽しんだことを覚えています。また、長野県の戸狩での自然教室では2泊3日で様々な経験をしました。お箸作りやBBQ、雨に打たれながらも水を掛けあつたカヌー体験。どれもこれも仲間がいたからこそ楽しむことができました。

そして、3年生。1、2年生の頃とは違い様々なことが例年通りの開催となりました。特に4月の沖縄への修学旅行では、初めて飛行機に乗ったりする人や、沖縄に行ったりする人もいました。きれいな海に向かって水切りをしたり、体に良いシークワサージュースを飲んだり、班の人とずっとトランプをしながらたくさん笑ったりしました。国際通りでの自由時間で班員と計画したところを巡ったことなど、すごくたくさんの思い出ができました。

その他にも、一日開催となり、とても白熱した体育祭、2年生の頃とは違い、間隔を詰めて歌えるようになった楠笑祭合唱の部。初めて練習した時には誰も歌詞を覚えておらず、クラスで団結して歌うことができるまでがとても大変だったことをよく覚えています。展示の幅がとても広がり、多くの人の努力の結晶を見ることができた展示の部。自由に班を組み、最高の思い出作りができた、よみうりランドへの卒業遠足。今年、早い時期からインフルエンザが猛威をふるい、体調不良者がとても増え、すごく心配したこともあつたけれど、全部無事に開催することができました。今年で最後だからと、全員がやれることを全力で行い、何事も楽しもうとしたからこそ、皆さんの中にもたくさんの思い出ができていないのでしょうか。

みんながいたからこそ楽しむことができた全ての行事。みんなだからこそ笑い合えた3年間。ここで過ごした3年間は良い思い出でいっぱいです。3年間本当にありがとう。

— 卒業生代表 原田 悠人 —



卒業式を迎えるにあたって、「卒業」という言葉の重みを感じます。3年前、大きめの制服と不安や好奇心とともに臨んだ入学式。今、もはや少し小さい制服と3年間の思い出とともに臨んでいる卒業式。見える形は似ていても私たちがもつものには大きな違いがあります。そしてそれは、私たちが3年間で大きく成長したことの表れです。

私たちは中学校生活の経験を通し、数え切れないほどの学びを得ました。日々の学習、人間関係、礼儀。今となってはあたり前にできるようになったことも、これまでの大切な学びのおかげです。そして、たくさんの人との関わりの中で互いに尊重し合うことの大切を学びました。尊重することは、相手を自分と違うところも理解し、受け入れることなのだと思います。私は1年間生徒会長として活動させていただきました。生徒の代表という立場は想像の何倍も大変で、マイナスな言葉が口から出ることもありました。無事1年の任期を終えることができたのはみんなが私を尊重し続けてくれたからなのだと、今ならわかります。そして共に活動した生徒会役員みんな。時には人に頼ることも大切だと教えてくれたのはみんなでした。会長らしからぬ姿を見せてしまい、頼りない私だったかも知れない。それでも始めから終わりまで支えてくれたこと、そしてこの7人で活動できたことをとても嬉しく思います。

3年間を思い返すとたくさんの「ありがとう」で溢れていたことに気づきます。3年間一緒に過ごしてきたみんな。本当にありがとう。授業を受けて、部活をやって、行事に全力で取り組んで、しょうもないことでバカみたいに笑って、みんなのおかげでこの3年間はかけがえのないものとなりました。学校に行くと「三宅」「桃花ちゃん」「会長」と呼んでくれる。そんな一つひとつの出来事も幸せなことだったのだと気づかされました。そして先生方。日々の授業に始まり、行事、進路と私たちの学校生活が良くなるようにと支えてくださったことに心から感謝します。これまで先生方にはご迷惑をかけたと思います。それでも最後まで私たちを優しい目で見守り、成長させてくださりありがとうございます。そして家族。無理なわがままを聞いてもらったり、自分勝手を押つけたりしたこともありました。それでも私を見捨てず、誰よりもそばで支え、私を信じて力になってくれたね。思いの詰まった言葉には何度も助けられました。本当にありがとう。



今日をもって長いようで短かった中学校生活は終了します。みんな、まずは3年間やりきった自分をほめよう。新たな高校生活はやっぱり不安です。しかし、自分のした選択は自分で正解へと導くことができます。自分を信じて進んでいきましょう。そして、これまでの恩と思いを胸に成長し続けましょう。みんなが大人びた姿でまた揃うことを楽しみにしています。

それぞれの新たな未来に期待し、今日、私たち131名はこの西本郷中学校を卒業します。

— 令和六年 三月十二日 卒業生代表 三宅 桃花 —



最後になりましたが、保護者の皆様、お子様のご卒業、誠にありがとうございます。心よりお祝い申し上げます。保護者の皆様はいつも西本郷中学校の教育活動を理解し、支援してくださいました。本当にありがとうございました。

## 卒業生合唱



< 校歌 >  
指揮 橋本瑠子さん  
伴奏 松永 莉奈さん



## ♪ 手紙 ～ 拝啓十五の君へ ～ ♪

人生の全てに意味があるから 恐れずにあなたの夢を育てて

Keep on believing... Keep on believing

Keep on believing Keep on believing

負けそうで 泣きそうで 消えてしまいそうな僕は 誰の言葉を信じ歩けばいいの？

ああ負けないで 泣かないで 消えてしまいそうな時は 自分の声を信じ歩けばいいの

いつの時代も悲しみを 避けては通れないけれど

笑顔を見せて 今を生きていこう 今を生きていこう

< 卒業生合唱 >  
指揮 稲垣 匠人さん  
伴奏 水谷 春音さん



卒業おめでとう！

第3学年職員一同



## 第9回 栄区中学校対抗駅伝大会

第30回 SAKAE ヤングフェスティバルの開会式に先立ち、3月17日（日）栄区中学校対抗駅伝大会がJR本郷台駅周辺周回コースで行われました。

栄区内中学校生徒の体力向上及び健康づくりに役立てるとともに、スポーツを通じて青少年健全育成を図ることを目的として、栄警察署、栄土木事務所の協力のもと、実施されています。

中学校6校各3チームの18チームが参加し、1・3・5・6区が男子、2・4区が女子による男女混合チームで競い合いました。

本校の選抜された18名の精鋭が息を切らし、懸命に走る姿に感動しました。



## 第30回 SAKAE ヤングフェスティバル 2024

第30回 SAKAE ヤングフェスティバルが3月17日（日）に本郷台駅前広場にて開催されました。この催しは栄区内の青少年の健全育成や地域の交流を深めるために、栄区青少年指導員協議会と栄区役所の共催により開催されている事業です。栄区のこれからを担う中学生が主役となり、テーマを「笑顔」として開催されました。

青少年指導員の伊藤元秀さん等のご協力で本校の参加メンバー（ボランティア）13名が、カレーライスやホットプリン、飲み物を販売しました。販売にあたっては、青少年指導員の指示をよく聞きながら3月2日（土）に本校調理室にてホットプリンの試作を行い、前日16日（土）には食材の買い出し、具材の下ごしらえ等、熱心に準備に取り組んでいました。

当日、本校の中山明音さんと吉井望櫻さんの素晴らしい司会で開会式が始まり、ステージでは栄区中学校吹奏楽部の演奏が行われ、本郷駅前広場での各模擬店・ブースでは思考を凝らした様々なものが販売されました。本校はカレーライス200食、ホットプリン200個、飲み物を販売し、晴天にも恵まれ、13:00の終了前に完売となりました。生徒も青少年指導員の方々も大盛況に笑みがこぼれていました。

ステージでは5番目に本校吹奏楽部が出演し、強風で楽譜等が飛ばされる中、観客の皆さんに楽しんでもらいたいと気持ちを込めて、一生懸命演奏に励んでいました。



本部で司会進行役の生徒



本校のボランティアのメンバーと  
青少年指導員のスタッフ



ステージでの吹奏楽部の演奏

### お知らせ

1. 令和6年度 着任式・1学期始業式・入学式 4月8日（月）
2. 令和6年度 離任式 4月9日（火）
3. 身体計測 4月11日（木）
4. 年全国学力・学習状況調査 4月18日（木）
5. 1・2・3年横浜市学力・学習状況調査 4月25日（木）
6. 授業参観・学校説明会・学級懇談会 4月26日（金）
6. 小中合同緊急引き取り訓練 5月2日（木） 13時15分より

※ 新年度の予定も変更になる場合があります。学校からの通知（すぐーる）やホームページをご確認ください！